

第 19 回 HAB 研究機構学術年会

創薬開発の迅速化を目指して

—探索的 IND 試験とトランスレーショナル研究の進展—

学術年会長：泉 高司 (第一三共株式会社)

日 時：2012 年 5 月 18 日 (金)・19 日 (土)

会 場：昭和大学 上條講堂

学術年会組織委員

泉 高司	(第一三共株式会社)
池田 敏彦	(横浜薬科大学薬学部)
大野 泰雄	(国立医薬品食品衛生研究所)
檜山 英二	(大塚製薬株式会社)
北田 光一	(千葉大学医学部附属病院)
小林 眞一	(昭和大学医学部)
杉山 雄一	(東京大学大学院薬学系研究科)
永山 績夫	(大鵬薬品工業株式会社)
堀井 郁夫	(ファイザー株式会社)
森脇 俊哉	(武田薬品工業株式会社)
山下 伸二	(摂南大学薬学部)
山添 康	(東北大学大学院薬学研究科)
山田 泰弘	(田辺三菱製薬株式会社)
吉田 武美	(昭和大学名誉教授)

プログラム概要

特別講演

薬物相互作用 (DDI) についての新しいガイダンス案について (仮)

Shiew-Mei Huang, PhD (FDA, USA)

招待講演 I

一細胞高速分子分析技術が開く創薬・生命科学イノベーション

升島 努先生 (広島大学大学院)

招待講演 II

創薬開発の迅速化を目指して — 国立がん研究センターにおけるファーストインマン試験の体制整備 —

藤原 康弘先生 (国立がん研究センター中央病院)

シンポジウム I 「トランスレーショナル研究の進展」

タンパク質の高感度同時絶対定量法を用いた創薬科学の新展開

寺崎 哲也先生 (東北大学大学院)

ヒト組織を用いた腎・消化管における薬物輸送ならびに相互作用の予測

楠原 洋之先生 (東京大学大学院)

in vitro/in vivo アプローチによる薬物肝取りこみトランスポーターの評価およびトランスレーショナルリサーチへの展開

今岡 知己先生 (第一三共株式会社)

がん薬物療法におけるバイオマーカー — 個別化医療に向けて —

西尾 和人先生 (近畿大学医学部)

シンポジウム II 「創薬への応用を目指した各種細胞テクノロジーの進展」

創薬のための新規細胞アッセイ技術

金森 敏幸先生 (産業技術総合研究所)

ヒト消化管手術検体を利用した薬物吸収性評価

三宅 正晃先生 (大塚製薬株式会社)

サンドイッチ培養肝細胞を用いた胆汁排泄の in vivo 予測の検証 (仮)

中仮屋 匡紀先生 (武田薬品工業株式会社)

HepaRG 細胞およびヒト化マウス (Tg マウス/PXB®マウス) を用いた酵素誘導評価

長谷川 真絹先生 (協和発酵キリン株式会社)

シンポジウム III 「早期探索的臨床試験におけるヒト組織を用いた in vitro 試験の重要性」

早期探索的臨床試験におけるヒト組織を用いた in vitro 試験の重要性

杉山 雄一先生（東京大学大学院）

MD 試験のアベイラビリティ (F) 測定値から治療投与量での F の予測における *in vitro* 試験の重要性

山下 伸二先生（摂南大学薬学部）

MD 試験と *in vitro* 試験の活用による薬物間相互作用の予測

前田 和哉先生（東京大学大学院）

肝臓への取り込み、胆汁排泄を PET イメージングで捉える：In vitro 試験との併用の重要性

木村 寛之先生（京都大学放射性同位元素総合センター）

企業からの期待（仮）

中井 康博先生（大正製薬株式会社）